平成27年11月24日

釜石市議会議長　佐々木義昭様

釜石市議会　海盛会
代表者　海老原正人

会派視察調査報告書

当会派所属議員による視察調査を、平成27年11月18日および19日、袋井市、伊豆の国市、沼津市で下記のとおり実施しましたので、報告致します（なお、古川愛明議員は病気療養につき不参加）。

１、視察項目：「袋井市観光基本計画」のこれまでの取り組みと経過について

日　時：平成27年11月18日　午前9時30分～11時30分
参加者：海老原正人　合田良雄　赤崎光男　後藤文雄
相手方：袋井市議会　大場正昭副議長　　産業振興課　幡鎌俊介課長
　　観光振興室　富山正俊室長
場　所：袋井市議会　会議室

研修内容：

①　視察先に選んだ理由

事前の調査で、袋井市が平成24年度から27年度までの4年間を計画期間とする「袋井市観光基本計画」を策定し、その目指す方向性が「リピーターとファンづくり」にあり、そのための基本方針として「地域ブランドの推進」「マーケティングの推進」「担い手の充実と育成」に取り組んでおり、世界遺産登録の認定を得た当市の橋野鉄鉱山のこれからの観光振興に参考になるものとの判断から選んだ。

②　袋井市の概要

面積は108㎢で、山林は僅か2割ほどで、極めて平坦な土地が広がり、農業が盛んな土地柄である。人口は87，000人ほどで、生産年齢人口が多く、高齢化率が19，2％と低い。遠州三山、「真言宗法多山尊永寺」「真言宗医王寺油山寺」「曹洞宗萬松山可睡齋」をはじめ、由緒ある寺院仏閣や東海道五十三次の「どまん中」（袋井宿）として観光資源の多いところである。

③　「袋井市観光基本計画」について

はじめに大場正昭副議長より歓迎の挨拶をいただき、当方から視察の目的ならびに東日

釜石市
議会事務局
27.11.24
No 420
受付

本大震災への支援に対し御礼を申し上げ、その後、視察事項について担当者から説明を受けた。

この計画は、市内外から選ばれた袋井市観光基本計画策定委員により、国の「観光立国推進計画」並びに静岡県の「ふじのくに観光アクションプラン」を念頭に、袋井市総合計画に基づいた計画策定とのことである。

袋井市の観光を取り巻く環境としては、次のように認識されている。平成 22 年度における観光レクリエーション客数は約 440 万人、そのうち宿泊客数は約 53000 人。傾向としては、「旅行の個人化」「安・近・短・小」「国内観光市場の縮小」「国内観光地間の競争激化」「静岡県全体の宿泊数は横ばい」があげられている。

これらの認識を踏まえ、目指す方向としては「リピーターとファンづくり」とし、目指す姿としては「心もからだもまちもほっとする『健康文化観光』ふくろい」が目標とされ、３つの基本方針が定められた。「１，袋井ブランドの創出」「２，マーケティングの推進」「３，担い手の充実と育成」である。これに基づき各方針ごとに 3 つの基本施策を設け、平成 27 年度時点の観光レクリエーション客数を約 480 万人、宿泊客数 54000 人を目指すものとなっている。

所　感：

視察先の袋井市は、橋野鉄鉱山の観光振興の参考のために選んだのであるが、それと同時に東日本大震災後袋井市から受けた義援金や様々な支援に対する御礼の意味もあった。

明治初めの田中製鉄所時代、その初代所長であった横山久太郎が袋井市出身であると言う縁で支援を頂いたわけであるが、事前に事務局に確認してもらったところ、袋井市から 1500 万円、議会からも 30 万円もの義援金を頂いていると言うことで、そのあまりの金額に驚いたところであるが、その御礼を申し上げたかったことも選んだ要因である。

このような支援を頂いていると言う当局から正式な説明がなく、議会側が認識できていないと言うことは、今次の視察研修の目的から外れていることではあるが、課題の一つと考えられる。

袋井市の観光の一番の課題は、観光客数に比べ宿泊者数が少ないことにある。それは基本的にホテルなどの宿泊施設が少ないことに起因しているが、近隣に宿泊施設の多い浜松市や磐田市・掛川市があり、観光資源はありながらも従来から宿泊者数が少ない状態が続いている。また、ハウス食品や大塚製薬など様々な企業があるにも拘わらず、ビジネスによる宿泊者数も少ないため新たな宿泊施設の増加も見込めず、「安・近・短・小」（安上がり、近場、短い、少人数）に見合った観光に特化しようという狙いのようである。

端から見れば、かつては袋井宿があり、遠州三山という観光名所や遠州花火のように全国的に知られている行事もあり、宿泊施設さえ設ければ泊まり客は確保できるように思われるが、ここ数十年かけて形成された近隣市との分業的な形態に挑むことになるような観光事業を行政として取り組むことはそもそも困難である、というような姿勢も一つの見識と言えよう。それ故基本計画の方向が 「リピーターとファンづくり」とされていると言

えよう。さらに、そのための一つの施策として、市内企業の「工場見学会」なども行っており、盛況とのことである。

以上の事を考えれば、釜石においても、橋野鉄鉱山の世界遺産を漫然と売り出すのではなく、対象を絞り込みより確実な集客を図ることを考えなければ、一時の盛り上がりという時流に流されかねないと言えよう。

また、観光ボランティアガイドの育成についてであるが、どこも同じであるがなかなか若手のなり手がいないとのことであった。ただ、袋井市の課題としては、ボランティアの活動の場自体が少なく、ボランティア数よりも先ずは活動の場の開拓が優先とのことであった。橋野鉄鉱山はガイドの説明がないとその持つ意義の理解がなかなか出来ないと思われるので、経費の面を含めどのような形でガイドを増やしていくか、早急な検討が必要と思われる。

（袋井市議会　会議室にて）

（袋井市役所玄関にて）

２、視察項目：国指定史跡韮山反射炉について

日　時：平成 27 年 11 月 18 日　午後 2 時 15 分～ 4 時 30 分
参加者：海老原正人　合田良雄　赤崎光男　後藤文雄
相手方：伊豆の国市議会　後藤眞一議長　　観光文化局　小野田勝文局長
　　世界遺産課　渡辺勝弘課長
　　観光課　　守野充義課長
場　所：伊豆の国市議会　会議室

研修内容：

①　視察先に選んだ理由

伊豆の国市の韮山反射炉も、今年の 7 月に世界遺産登録された「明治日本の産業革命遺

産　製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産の一つである。いわば当市の橋野鉄鉱山と似たような環境にある。そこで、韮山反射炉をどのような形で観光振興に結びつけているのか、との取り組みを学ぶためである。

②　伊豆の国市の概要

人口約 49000 人、面積 94 ㎢。伊豆の国市は、東は箱根山系の連山に、西は城山、葛城山などの山々に囲まれ、平野部は南北に狩野川が流れ、豊かな田園地帯が広がっている。東京からは 100km 圏域にあり、東海道新幹線、東名高速道路を利用して 2 時間弱の所要時間であり、首都圏とのアクセスもよく、沼津市や三島市の静岡県東部の中心地に近く、交通の利便性に恵まれている。平成 17 年、伊豆長岡町、大仁町、韮山町が合併して伊豆の国市になった。

③　国指定史跡韮山反射炉について

後藤眞一議長より歓迎の挨拶を受けた後、当方から視察目的を申し上げ、その後、担当者から視察事項について説明を受けた。

韮山反射炉は、すでに大正 11 年に国指定史跡と認定されている。

今回の世界遺産登録にあたっては、次のような価値付けガなされている。「人類の価値観の重要な交流の証拠」、「日本の産業史の転換期を象徴し、西洋技術の日本への移植の成功例として傑出した証言」、「当時の日本の職人の技術と伝統的な知識を証言」、「輸入された技術の導入の自主的な取り組み方のパターンを確立したことの証言」、「西洋技術の自主的な採用を示す初期段階の重要な物証」、「技術的集合体の重要な構成資産」とされている。

資産の面積は、0、5 haで橋野鉄鉱山の 77 分の 1 である。ただ、反射炉そのものだけではなく、大砲鋳造工程に必要な「本錐台小屋」や「御筒仕上小屋」、さらには「水車小屋」とそのための河川も含まれている。しかし、この小屋等は現存せず、その遺構があるだけである。

管理保全上の最大の課題としては、反射炉本体の劣化対応があげられている。築造当初のオリジナル煉瓦が 8 割ほど残存しているが、その劣化が進んでおり、海外の専門家を交えた検討会において今後の保存のあり方を決めるとのことである。

平成 28 年度までに実施する事業としては、資産隣接地の公園並びに多目的広場の整備、ガイダンス施設の建設、駐車場の整備、富士山と韮山反射炉を同時に望むスポットの整備、道路誘導サインの整備などがあげられている。

韮山反射炉への入場者数は、ＮＨＫ大河ドラマ「草燃える」の放映があった昭和 54 年に最高の約 44 万人を記録し、それ以降漸減し、平成 22 年度は 5 万人を切るところまで落ち込んでいたが、世界遺産が決まり一気に増え、今年は 11 月までに約 40 万人となり、記録更新は間違いなしとの状況にある。

ガイドの活動については、従来から活動していた「ガイドの会」会員が 34 人、それに新たにシルバー人材センターから 11 人が加わり、さらに英語の出来るガイドが 36 人おり、

5 人のガイドが常駐しているとのことである。ただ、観光客が多いときでは一日 3000 人から 4000 人になるため、市職員も応援で駆けつけている、とのことであった。

会員数 1 万人を有する「韮山反射炉応援団」という組織があり、世界遺産登録に向けて活動を展開してきたが、登録になったこれからは組織替えをして、保全管理等を主体とする組織として再構成するとのことであった。

所　感：

我々が訪れたときは、生憎の雨模様の夕方近くであったが、それでも観光バスが数台止まり、100 人程度の観光客が見られた。いわばそれほど盛況であるということである。

反射炉のある韮山は、そもそも鎌倉幕府の北条氏縁の地で、名所旧跡が多くもともと観光地であり、平成 25 年度の観光客数も 220 万人ほどある。平成 27 年度を初年度とする「伊豆の国観光基本計画」を作り、期間最終年の平成 36 年度の客数を 300 万人と見込んでいる。反射炉施設は、そのための要素の一つとして位置づけられている。

行政当局の最大の心配事は、現在の観光客の激増が一過性のものに陥らないようにと言うことである。日本における世界遺産登録後の観光客数の推移を分析すると、3 つのパターンに大別されるという。一つは、屋久島や白川郷のように、登録後増加するパターン。二つ目が、石見銀山や原爆ドームのように、一時的に増加するパターン。三つ目が、法隆寺や姫路城のように以前から有名なためインパクトのないパターン。

このため伊豆の国市では、二つ目のパターンに陥らないように、他の歴史資源や観光施設との周遊性、伊豆長岡温泉への宿泊誘導などをとおし、地域全体の魅力を伝え一過性に陥らないような取り組みを進めている。

翻り橋野鉄鉱山を考えれば、伊豆の国市に比べその取り組みが遅れている、もしくは弱いように感じられる。現在、東日本大震災からの復興半ばと言うこともあるが、他施設等の関連付けがあまりなされていないように思われる。熱くなりやすくまた冷めやすい国民性のようなものを考えると、早急に手を打たないとパターン２に陥る危険性を釜石こそが抱えていると言える。

特にも、ガイドの説明がなければ史跡のもつ本来的な意義についてはなかなか理解困難と思われるだけに、先ずはガイドによる案内体制を充実させることこそが求められると言える。

また、韮山の場合すぐ側に民間の売店や飲食施設があり、一般的な観光客の要望等にも応えることが出来るような体制にある。釜石は置かれた地理的条件等を考えると、そのような施設は経営面からの制約があり、なかなか困難なところであるが、それでも飲食施設等については、官民で連携し何らかのものを考えて行くべきものと思慮されるところである。

（伊豆の国市議会　会議室にて）

（韮山反射炉）

３、視察項目：沼津魚市場の視察　　海の魅力発信事業について

日　時：平成 27 年 11 月 19 日　午前 10 時～ 11 時 45 分
参加者：海老原正人　合田良雄　赤崎光男　後藤文雄
相手方：沼津魚類協同組合　瀬戸正行常務理事
沼津市観光交流課　原将史課長補佐
沼津市水産海浜課　大島丈宗主任
沼津市水産海浜課　宗藤寿彦主任
沼津市水産海浜課　黒澤喜紀主事
沼津市議会事務局　高島弘和書記

場　所：沼津魚市場ならびに会議室

研修内容：

①　視察先に選んだ理由

水産複合施設「沼津魚市場ＩＮＯ（イーノ）」は、今から 7 年ほど前、施設の供用開始直後に会派視察を行っている。市場機能に、見学者用通路、展望デッキ、食堂などの観光要素を合築させた複合施設で全国的にも類がないものである。

そこで、供用開始からどのように推移してきたのか、さらにはこれを核として海の魅力をどのように発信しているのか、を学ぶために視察先に選んだ。

②　沼津市の概要

人口は約 20 万人、面積はおよそ 187 ㎢。富士箱根伊豆公立公園の西玄関で、変化に富んだ美しい海岸線が形成されている。みかん・茶・野菜の栽培、豊富な水産資源を活かした水産加工などが盛んである。

歴史的には、縄文や弥生時代の遺跡も多く、その後の古墳をはじめ、各時代ごとに栄えてきたことがうかがえる土地柄である。古来、東海道の陸路と海路を繋ぐ交通拠点であり、江戸時代には沼津城が築かれ東海道の宿場町として栄えるなど、人・物・情報の交流拠点として、政治経済や商業、文化の中心的役割を担ってきた。また、明治になると沼津御用邸が造営され、保養地として全国的に知られるようにもなった。

③　沼津魚市場ならびに海の魅力発信事業について

はじめに、沼津魚類協同組合の瀬戸常務理事より魚市場の案内・説明を受けた。その後会議室に移動し、当方から改めて視察の目的を申し上げ、続いて沼津市当局の担当者より視察事項について説明を受けた。

魚市場の特徴は以下の通り。

1、平成18年着工、平成20年1月より供用開始。

2、総工事費約13億円。建築面積5837㎡、延床面積7697㎡。

3、HACCAP 対応の市場機能に、見学者通路、展望デッキ、食堂などを合築させた複合施設。

4、市場機能については、国・県・市の補助を受け、観光機能については県と市の補助を受けている。ただし、セリ場や事務所は補助対象外とのこと。

5、市場機能の特徴としては、四面閉鎖のクローズド型で、鳥害・風害・粉塵・害虫の防止対策、低温管理（マイナス60℃）バッテリーフォークリフトの使用、換気・臭気対策、滅菌水の使用、温度管理などがあげられる。

6、セリ場への出入りは一方通行とし、入り口には手洗い・足洗場を設け、リフトの出入りも洗浄プールを設けている。

7、見学者は衛生管理のためセリ場には入れず、見学者通路から見ることが出来る。

8、セリ場内には車両進入防止のため、段差構造としている。

9、魚食館エリアにはテナントとして 3 店舗入店し、魚食普及、地産地消をテーマとしている。

10、デッキからは、富士山や防潮水門の「びゅうお」などを眺望できる。

以上の特徴から分かるように、施設としてはよく考えられ配慮の行き届いた施設である。特にも、従来の釜石魚市場からは想像も出来ないような衛生管理がなされ、仕事の流れが効率的に進むような配置となっている。

水揚げ高は、ハッキリした数値は示されなかったが、年間170億円前後で推移している模様。また、割合も分かりかねたが、前浜もの以上に陸送による搬入が多いようであった。

海の魅力発信事業については、「海に関連したイベントの実施」「観光資源の管理運営及びＰＲ」「にぎわいネットワークづくり」が行われている。

「海に関連したイベントの実施」では、大きなものとしては次の二つがあげられる。

1、「大瀬まつり」：毎年 4 月 4 日に、大漁・航海安全を願う漁師が沼津市西浦大瀬の大瀬

神社に参拝船で集結。平成 27 年度の来場者数は、17000 人あまり、市では補助金 25 万円を出しているとのこと。

2、「戸田港まつり」：沼津市戸田地区で行われるもので、今年は 7 月 18 日に実施。歌や踊りのステージ、海上段ボールレース、花火大会などが行われる。27 年度の来場者数は 4000 人で、補助金は 170 万円とのこと。

また、沼津港は国から「みなとオアシス」の認定を受けているため、「みなとオアシス」の認定を受けている地域で行っている「みなとオアシスＳｅａ級グルメ全国大会」への参加や「みなとオアシス会議」の開催、他地域のみなとオアシスのイベント等にも参加しているとのこと。

「観光資源の管理運営及びＰＲ 」では、市内に 6 カ所ある海水浴場の管理（水質検査・放射線測定）及び監視業務を行い、平成 27 年度の来場者数は 12 万人となっている。
また、日本最大級の大きさである大型展望水門「びゅうお」の管理・ＰＲに努めているとのこと。ここからは駿河湾や富士山を 360 度の大パノラマで見ることが出来、平成 26 年度の入場者数は約 13 万人とのこと。
さらに、昨年、市場周辺の飲食店街に「深海水族館」がオープンし、賑わっているとのことである。

「にぎわいネットワークづくり」では、沼津駅と沼津港を結ぶ路線に観光用レンタサイクル「ぬま輪」を設置しているとのこと。これは無料で、平成 26 年度の利用実績は 2775 台。また、日曜日と祝日に限り、沼津駅と沼津港を結ぶ無料シャトルバスも運行しているとのことで、一日往復で 8 便であるが、平成 26 年度の利用者は約 2 万人。また、沼津駅と沼津港を結ぶ歩行環境向上策として、トイレや休息に立ち寄ることが出来る「まちかどすぽっと」を 3 カ所設置しているとのこと。

以上のような取り組みにより、沼津港周辺への来場者数は、平成 26 年度で 145 万人に達しているとのこと。また、沼津市全体では 380 万にほどの客数とのこと。

所　感：

鶏が先か卵が先かの議論になりかねないが、来場者数と施設の関係を考えると、大いに見習うべきものがあるように思われる。
市場としての釜石港を考えると、年間の水揚げ高が 100 億円を超えた昭和 50 年代、周辺には水産加工場が数多くあったが、水揚げ高の減少に比例する形でそれらの施設も少なくなり、往時の面影が失われてしまった。宮古や大船渡にしても、確かに最盛期からは落ちてはいるが、その減少幅は釜石ほどではない。釜石水産業の衰退の要因は那辺にあったのか、今一度しっかり検証する必要があるのでないか。

東日本大震災により壊滅的な被害を受け、魚河岸地区の新魚市場の再建をはじめ、水産加工場の再建も始まっているが、新魚市場の水揚げ高が目標の 36 億円に届くように事業展望出来るのか。市場に付随する形の賑わい施設にしても、本来の水揚げ高が伸びなければ、この施設だけが賑わうというようなことはあり得ないのではないか。

沼津魚市場は、衛生管理と効率化を徹底させ、陸送であっても水産物をかき集め、市場本来の機能を保つことにより、一般の観光客も集めていると言える。

また、沼津の場合、7 年前に訪れたときにはほとんど無かったのであるが、市場周辺に民間の飲食店街が形成され、我々が今次訪れたときには、セリの終了後であったが、市場の駐車場に観光バスが数台止まっており、飲食店街付近を多くの観光客が歩いている様を目にすることが出来た。これは行政と民間の連携が上手く取れていることの証ではないのか。釜石ではこのようなことが期待できるであろうか。

蓋しこの点については、地理的な条件等も考慮する必要があろう。沼津は、東京から 2 時間以内に来ることが出来る。この事が多くの観光客をもたらす大きな要因となっているものと思われる。釜石も、三陸縦貫道路が完成すれば仙台から 2 時間少しの所となり、それなりに展望を持つことは出来るかもしれない。ただし、仙台から来る途中に気仙沼や大船渡があり、釜石の先には宮古があるような状況では、よほど差別化を図った取り組みを進めなければ、道路状況が良くなっても集客は見込めないであろう。

英知を集めて取り組みを考える必要があろう。

（沼津魚市場会議室にて）

（魚市場のフロントにて）

（海老原記す）

袋井市議会

副議長

大場 正昭

袋井市産業環境部
産業振興課課長

幡鎌 俊介
Hatakama Shunsuke

〒437-8666 静岡県袋井市新屋一丁目１番地の１
TEL:(0538)44-3136/E-mail：syunsuke-h01@city.fukuroi.shizuoka.jp

東海道どまん中
心の散策 袋井 ほっと 観光

ふくろい観光ルネッサンス

ふわ之介

袋井市産業環境部
産業振興課 観光振興室

室長 富山 正俊
Tomiyama Masatoshi

〒437-8666 静岡県袋井市新屋一丁目1番地の1
TEL.0538-44-3156 FAX.0538-44-3189
E-mail masatoshi-t01@city.fukuroi.shizuoka.jp

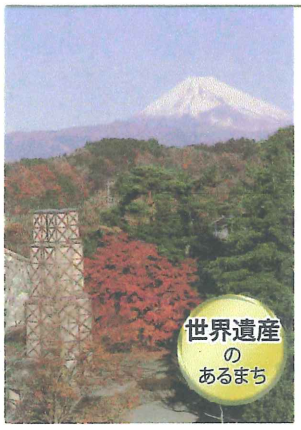
袋井市観光案内所 〒437-0027
袋井市高尾町1番地の1 静岡第一袋井ビル1階
（袋井市観光協会 TEL.0538-43-1006）

心もからだもまちもほっとする「健康文化観光」ふくろい

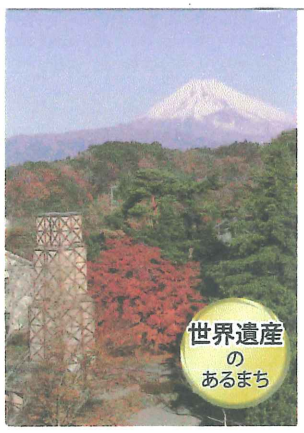
重要文化財 江川邸

静岡県
伊豆の国市議会
議 長 後 藤 眞 一
〒410-2292 静岡県伊豆の国市長岡340-1
電 話 055－948－1417
FAX 055－948－2913
http://www.city.izunokuni.shizuoka.jp/

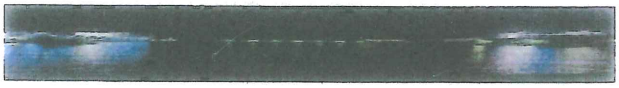
静岡県 伊豆の国市
市長戦略部 観光文化局
世界遺産課
課 長 渡 辺 勝 弘
〒410-2292 静岡県伊豆の国市長岡346-1
TEL 055-948-1425 FAX 055-948-2926
E-mail kw301922@city.izunokuni.shizuoka.jp
URL http://www.city.izunokuni.shizuoka.jp



静岡県 伊豆の国市
市長戦略部 観光文化局 観光課
課 長 守 野 充 義
〒410-2292 静岡県伊豆の国市長岡340番地の1
TEL 055-948-1480 FAX 055-948-2926
E-mail mm402729@city.izunokuni.shizuoka.jp



静岡県 伊豆の国市
市長戦略部 観光文化局
局 長 小野田 勝 文
〒410-2292 静岡県伊豆の国市長岡346番地の1
TEL 055-948-1480 FAX 055-948-2926
E-mail ko402150@city.izunokuni.shizuoka.jp
http://www.city.izunokuni.shizuoka.jp/



沼津港内港風景

沼津魚類協同組合

常務理事 瀬 戸 正 行

本　　社〒410-0823　沼津市我入道 18 番 1 号
市場事務所〒410-0845　沼津市千本港町 128 番地 3
TEL (055)962-3700(大代表)　FAX (055)951-6851
携帯番号 080-3691-5597　E-mail : m_seto@numaichi.co.jp

沼津市役所産業振興部水産海浜課

水産海浜係　主任

宗藤　寿彦

〒410-8601
静岡県沼津市御幸町16番１号
電話番号:(055)934-4756(直通)
FAX番号 :(055)933-1412(5階ﾌﾛｱ用)
e-mail:suisan@city.numazu.lg.jp

世界最大の甲殻類「タカアシガニ」(沼津市戸田)

沼 津 市 役 所

産業振興部 水産海浜課 水産海浜係

主 任 大 島 丈 宗

〒410-8601
静岡県沼津市御幸町16番1号
TEL:(055)934-4756
FAX:(055)933-1412(5階ﾌﾛｱ用)
e-mail:suisan@city.numazu.lg.jp

沼津市議会事務局

書記 高 島 弘 和

〒410-8601 静岡県沼津市御幸町一六番一号
TEL(〇五五)九三四一四七一一(直)
FAX(〇五五)九三一一一二六
E-mail:takashima.hirokazu@city.numazu.lg.jp